

## 対談

# ベストパートナーをめざして

昨年からのコロナ禍では各業界の活動も影響を受けた。一方で、今年はコロナ後を見据えた業界活動の活性化を目指す動きも出ている。このため、本紙では「ベストパートナーをめざして」をテーマに全管連・藤川幸造会長、管機連・橋本政昭会長の新春対談を企画。両全国団体の現状や今後の展望などを大いに語っていただいた。

(日本設備工業新聞2022年1月25日付より転載。)



**橋本 政昭氏**

一般社団法人全国管工機材商業連合会会長

——新型コロナウイルス感染症が拡大して2年近く経過しました。昨年1年を振り返ってください。

**橋本会長** ストレートに言えば、コロナに翻弄された1年だったと思いますね。今は何で感染率が低くなったのか。日本は欧米に比べて3ヵ月くらい遅れてワクチンの接種が始まりました。欧米より3ヵ月遅れた分だけ抗体の保持率が高



**藤川 幸造氏**

全国管工事業協同組合連合会会長

いので、コロナが収まっているのだという見方があります。逆に言うと、抗体が弱くなった2月頃に増えるのではないかと。政府は3回目の接種を目指していますが、政府がどこまで3回目をやれるかどうかですね。3回目の接種が滞っている一番の原因はワクチンの確保ができていないからです。この先、3回目の接種がキーになりそうですね。



対談では新年を祝して乾杯も

——全管連はどのような年でしたか。

**藤川会長** コロナの影響はかなりあります。まず、会合ができない。WEBではやっていますが、やはり伝わりきれない面があります。何と云っても日本人は懇親会をやって親交を深めることがけっこうあります。去年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が9月末で解除されました。平常時ですと7月から10月にかけて全管連10ブロックで毎年各ブロック会議というものが地方であります。しかし会場のキャンセル問題などがあって、9月中に大半を中止せざるを得なかった。ですから、10ブロックのうち関東ブロックと近畿ブロックだけしか実際に会議ができませんでした。それも以前のような大々的な懇親会はやりませんし、酒の注ぎあいもなしでした。会長就任1年目は全ブロックで会議をやりまして私の考えを全国の皆さんに知ってもらい良いチャンスでした。2年目はコロナ禍で一切できませんでした。去年もそういう形でしかできませんでした。衆議

院選挙がありましたが、水道議連の先生方への挨拶まわりなどもまだやり切れていません。そのようなことで11月の終わり頃から毎週東京へ出てきていました。

——オンラインとフェイスツーフェイスの面でのご苦労はありますか。

**橋本会長** 管機連は平成25年に一般社団法人として生まれ変わって以降、管工機材販売業界の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦と融和により共存共栄の実を上げることを目的とする全国組織を目指して活動を展開しています。我々は会議をハイブリッドと言っています。いわゆるオンラインとの組み合わせです。両方ともどちらでもいいですよという形でやっています。ただ、私も基本はリアルが大事だと思っています。終わってから意見交換会の形で1時間くらい意見交換をすべきだと思っています。コロナ対策で広い部屋で座りやすくしています。コロナは見えないので、どこにどれだけあるのかは分かりません。そう

いう意味でワクチンを接種して抗体ができていた間はいいのですが、それが2月に切れたときに増えるかもしれないですね。また緊急事態宣言になるかもしれません。

——それを見越して新年賀詞交歓会を中止されましたね。

**藤川会長** 例年行っている賀詞交歓会という形はやりません。その日はいつも理事会を開いていますので、理事会だけを行い、厚生労働大臣表彰を受表彰された方がいますので、その方々に水道課長に来ていただいて表彰状を授与する予定です。

**橋本会長** 全管連はコロナ対策をしっかりやっているといます。将来を見据えたビジョンも作られましたね。

**藤川会長** 全管連ビジョンの基本には会員数が減少しているという危機感があります。これからの全管連のあり方を考えると、もう少しスリム化して活発な議論ができるようにしたら良いのではないかというのが元々の発想です。それでいろいろ議論してもらいました。水道工事は発注事業体によって考え方が違います。例えば、北海道へ行くと凍結深度というものがあります。釧路市はずいぶん深く、それより下に水道管が埋設されています。標準的には土被りは浅層埋設

でもっと浅く、そうなってくると仕事の内容も違う訳ですし、土木的な要素も入ってきたり、全国的な話になると一概にはできません。発注者がどういうふうに配水管の工事をとらえているかによります。土木工事業で発注したり、管工事業で発注したり、水道施設工事業で発注したり、事業体によって考え方がさまざまです。全国一律に統一しようと言ってもなかなか難しい話です。ほかの地方の話聞いて、自分のところで採用できるかどうか、組合員が考えて事業体と話をするしかないと思います。

——地域性というものがあ、全国一律で規格が難しいというお話がありました。その辺は管機連としてどうお考えですか。

**橋本会長** 行政単位を市町村で見ると、県単位で見ると、あるいは広域で見ると違っています。基本的に今の仕組みは県単位になっており、我々の組合も県単位となっています。県単位で話をするのが一番良いと思います。本当は水道の歴史からいうと市町村ですが、県単位で責任者がいるほうが良いと思います。ただ現実には地震などの災害が発生したら全部市町村単位になります。

**藤川会長** 私は富山県在住ですが事業体によって考え方は異なります。私が富

### 管機連ビジョン浸透へ…橋本氏

山市の組合の理事長に就任してから給水工事の申請などの標準様式を作ってもらいました。事業体によって、どうしても別に必要なものがあれば、それにプラスすればよいということになりました。それまでは不統一でした。極端な例ですと、給水の取り出しをするのに町内会長のハンコが必要な時もありました。ついこの間までそうでした。町内で穴を掘ると町民から町内会長にクレームがきたりしました。だから町内会長に承諾をもらい、回覧板をまわしたりしたこともあります。そこまでやっていました。

——行政側もスムーズに円滑にできる方がいいのではないですか。

**藤川会長** 全国を見ていると、例えば富山県の場合は県の真ん中に山がありまして、それを境に文化が全然違います。石川県でも能登があり、金沢もあります。金沢市と小松市とでは全然違います。ですから、富山県連とか石川県連はありますが、考え方は違って、完全に統一するのは難しいのが実情です。水道工事をやることは皆一緒ですから、一緒に出来ることは統一していこうと常々話をしています。ですからGX形のダクタイル鉄管が最初に入ったときに、掘削幅は50センチでしたが、我々はNS形と一緒に60センチにしてほしいと要望し

ました。これなどは全国共通の要望事項です。50センチの幅で人間が入れるわけがないし、そうすると土留めとかの作業も必要になってきます。

——管機連は組織の見直しをされているのでしょうか。

**橋本会長** 管機連は全管連さんのビジョンに倣って管機連ビジョンを策定しています。これから浸透させていく方針です。また委員会でいろんなことをやってもらおうと思っています。委員会は総務、人材、IT推進、経営推進、環境の5つです。環境委員会は以前は情報委員会の名称でしたが、環境重視でSDGsなどを推進してもらうために名称を変えました。

——人材確保についてはどうお考えでしょうか。

**橋本会長** 例えば東京や大阪は展示会を利用して業界PRをしています。今は人材を採用するときに、リクルートとかインディードとかIT系のいろんな方法があります。それをどう活用するかです。人を育てる教育はまた別だと思います。全管連でのキーは工業高校の設備科系学科だと思いますが、設備科がもう少し日本の中で充実しないといけません。業界のベースになるところですからね。日

本が発展したのは実は専門高校、商業高校がかなり支えたところがあったからだと思います。

——工業高校の設備科を強化することは共通の課題ですね。

**藤川会長** 我々は設備科の支援として技能検定受検練習用の資機材を提供しています。

**橋本会長** ロボットコンテストを知っていますか。工業高校で一番華やかなのがロボコンです。ロボットに関しては工業高校が先進的です。逆に言うと技能五輪をもっとうまくやって、我々が材料を提供するとかして盛り上げていくことも考えられますね。

——そこで、本日のテーマであるパートナーシップということで、全管連と何か連携しながらやっていくというのはいかがですか。

**橋本会長** 技能五輪は一緒にやらせていただいております。我々は材料を提供しています。国内大会と国際大会と両方あります。基本的には会社単位になっていますが、うまく工業高校の人たちを取り入れる仕組みがあればいいですね。その仕組みはロボコンでもいいと思います。

——魅力ある業界への取り組みは。

**藤川会長** 青年部の幹部と懇談しましたら、青年部がない県もありますし、青年部がないとこの業界は終わってしまいます。管工事について、以前、水道工事

店物語という漫画を作成しましたが、この漫画をもう一度作り直して中学校や高校に配布しようかと考えています。少しでも業界を解ってもらえるようにしたい。水道週間とかパイプの日に合わせて各地でPRも実施しています。

**橋本会長** 東京では管機連の幹部と青年部がともに会議に出ています。お互いに要望を出すという交流会となっています。我々の方は、全国組織の青年部が無いので、そこをどうするのが課題です。基本的には県単位で青年部の交流をすればいいと思います。

——全管連の県単位の青年部と交流していく。

**橋本会長** まず、県単位の管工事組合さんと我々の管工機材商組合、今加入組合が18組合ありますがこれを更に増やして交流していきたいと思います。

**藤川会長** 橋本会長の本を読ませてもらいましたが、仕事の基本的なルールと言いましょか、正直、親切、熱心と書かれています。どういう商売でも同じです。その中でベストパートナーという言葉もあります。これも橋本会長の商売だけでなく、我々の商売にも通じることです。

**橋本会長** 全管連からいつも盟友と教えてください。これは凄いいことだと思いますね。ベストパートナーという言葉は漢字にすると盟友だと思います。盟友のほうが中身が深いという気がしますね。

**藤川会長** やはり三方良しというか、建設業の場合は発注者、業者、市民の皆さんということになります。自分のところだけ良ければいいということではダメなので、何のために仕事をしているのが大事です。少しでも良くしたいと思うから皆頑張っている訳です。どんな業種にしてもです。ですからその業種により相手は違いますが、我々の場合は公共工事ですから、税金を使って仕事をさせてもらっているのです、いい仕事をしてお返しするのは当然の話です。仕事を通じて社会貢献にもつながっています。

**橋本会長** もう一つのキーワードはライフラインですね。

**藤川会長** ライフラインという貴重な仕事をしているという意識を持っていれば変なことはできないはずなんですけどね。中にはやってはいけないことをやっているという話も聞きます。そういうところは基本的な考えを忘れてしているというか、社員に対して教育をしているかどうか疑問です。この辺が一番大事ではないかと思えますし、全管連としても徹底していきたいと思えます。

**橋本会長** それも共通の課題だと思います。教育は非常に大事ですからね。

——災害時などのときにライフラインの仕事に携わっていることを改めて見直

すことは多いと思いますが、東日本大震災の時も供給する義務を果たすと御本に書かれています。

**橋本会長** あの時は全管連さんと協定を結んでいましたので、我々は材料を持っていくことができたんです。協定がなかったら材料を運ぶのを警察が許さなかった。協定があるからライフラインの材料を持っていきますよとなって警察が認可してくれました。例えば建材業界の人は建材が運べなかったんです。ライフラインと関係がありませんから。水道の材料はライフラインそのものですからね。今、SDGsと言われますけれども、Sのポイントはライフラインをどうやって守っていくかです。まさに水ですね。DはデジタルでIT化をどうやって進めるか。Gはグリーンですが、グリーンのポイントも水になってきます。水道の歴史を見ると、世界どこへ行っても水道の水はなかなか飲めないですよ。給水と排水両方とも日本のシステムは凄いですよ。文明国だって、ホテルで出す水が飲めるところはなかなかありません。また、トイレに紙を流せるところもないですよ。

**藤川会長** 日本は飲み水に関して言うと、昔は沢水を飲んでいれば良かったんです。水はあって当たり前なんです。蛇口をひねれば当然飲めると思っている。

## 適正利潤の確保を…藤川氏

災害などで水が止まって初めて困る訳です。それで復旧した時に有難さを感じてもらえます。だから普段から我々が安心して企業を存続できるような適正利潤で若い人たちが振り向いてくれるような業界になっていかないといけない。新3Kと言いますが、給料・休日がちゃんと取れて希望が持てるのが大事です。人材確保という話がありましたが、人口減少社会でトータルな人数が少ない中で業種間の取り合いなんです。現代の若者はきれいな格好をして、ある程度稼げ、普通の生活ができれば穴に入って泥だらけになって仕事なんかしたくないじゃないですか。

——そういう仕事だからこそ、適正な利潤があり、周囲から尊敬されるということがあってしかるべきだと思います。

**藤川会長** 災害時に応急給水をしたり、応急復旧をしたりすると、皆さんからありがとうと言っただけですが、普段はちょっと勉強しないとああいうオジサンになってしまうよというようなことをいまだに言われています。ああいう人たちはこういう大切な仕事をしているんだよ、あの人たちのおかげでちゃんと水が飲めるんだよと言ってほしいですね。

**橋本会長** 業界PRは業界がやってい

## 社会貢献も評価対象…橋本氏

かないとダメですね。やることはまだまだありますが、やはり給料というのは大きいです。今の人はお金に非常に敏感です。ネットで1円でも安いものを選ぶ。それが今の若い人たちの基本構造です。価格の比較サイトもありますしね。ですから給料は非常に大事だと思います。

**藤川会長** 例えばユーチューバーでもお金が稼げる訳ですから、汚い格好で穴に入りたくはないですよ。学歴も必要ないですし、やろうと思えば誰だってできるじゃないですか。発想力があるかどうかなんですけれどもね。そういう時代ですから、私は水道議連の先生方にも言いますけれども公共工事の労務費調査で配管工の設計労務単価としていくらとなる訳です。それが低いからもっと上げたい。役所も週休二日制とか給料のアップと言っているのに設計労務単価がそれでは上がる訳がない。まして一般競争入札じゃないですか。そうすると予定価格の満額では落札しません。やはり何パーセントか、場合によっては低入札ぎりぎりにいくときには10パーセント程度切らなくてはならない時もあります。その時は純利益から出さなくてははいけない訳です。最初から純利益を捨てて、それでどうしたらいい給料が出せるのか。二十歳の若者が入社して、いずれ結婚したり、家を持ったり、子供もできて、その時に



橋本会長

いくらの年収を想定してあなた方は設計を組んでいるんですかと言いたい訳です。給料の上昇をいうなら先にもっと単価のいい仕事をということになります。

——人材確保の上でも給料がかなり大きな問題になっている。

**橋本会長** ずっとそうですよ。全管連の大澤規郎前会長もいつも給料を上げろと言っていました。

**藤川会長** 単純に言えば橋本会長は商社の方ですから安く仕入れて高く売れば儲かる。我々も仕事が増えれば受注して下請を叩けば会社は儲かります。しかし、その下請が、ずっとついてきてくれるかどうか重要なんです。

**橋本会長** やはりそうなるとお互いWin-Winでないと絶対うまくいきませんよ。

**藤川会長** ハッキリ言って仕事の単価を切るとロクな仕事ができない。下請もちゃんと適正利潤を取れるように我々もちゃんと発注しないとイケません。いろんな会話をしながら、お互いに悪い点は直していかなくてはならない。お互いに



藤川会長

意見交換しながら仕事をやっていかないと現場は上手くいきません。そうしないと絶対いい工事はできません。うちはこのようにしたいんだと先に言って、彼らの意見を聞きながらやっていかないと後になってこれは違うじゃないかとなります。最初にそういうふうにおけば、よほどのことが無い限り必ずいい工事ができる筈なんです。

——橋本会長が仰っている「共に栄える」に通じますね。

**橋本会長** 共に栄えるはお客さんに言っています。お客さんの方も理解し協力していただいております。

**藤川会長** ギリギリで受注するから今回だけは協力してくれないかとお願いはしますけれども、普通ならちゃんと向こうも利益を出してあげないと。1回きりではだめですよ。橋本会長の本でも、縁と言うことに触れられていますが、いつどこでその人とまた一緒に仕事をしなければならぬかわからない訳です。そういうことを考えると、適正利潤はお互い取ったほうがいい。





**橋本会長** 社会的にも短期利益で儲かればいいじゃないかという風潮が明らかに変わってきています。社会貢献も評価の対象になっています。さらにデジタル化、グリーン化も求められています。業界として環境問題をどうとらえていくのか。どういうことをしていくのか。大変厳しくなっていますよ。CO<sub>2</sub>の発生量が多い企業はバツになりますよ。ヨーロッパが先行していて非常に厳しいです。国も具体的な指標を出してきますよ。

**藤川会長** 入札に環境問題が入ってくることも予想されます。富山市の場合もガソリンで走っている車をハイブリッドにするとか、電灯をLEDに代えるとか求められています。すぐに代えろと言っても無理だから、チーム富山市と言っていますが、建設業者はほとんどが参加しています。意識改革が必要になっています。

**橋本会長** 環境対策をしなければ社会

的ペナルティーになります。

**藤川会長** 事業量の確保も大事ですが、省エネも大事になってきます。まずは意識改革ですよ。そういう気持ち一つ持つだけで違うと思いますね。日本はいろんなものが節水型になっていて、水道の使用量も減ってきています。富山は昨年の冬にたくさん雪が降りました。雪は水を出しっぱなしにして解かすんです。道路にも消雪装置があります。消雪には井戸水を使っています。それで昨年は一斉に水を出したことから水が止まってしまい大騒ぎになりました。除雪対応に対して降雪量が勝ってしまった訳です。ですから環境問題は自分たちの意識をちょっと持つだけでも違ってくると思います。全部やれというのは難しいので、意識をもってやっつけていけば、ゴミ一つにしても違ってくるのではないかと思います。

—お互いの取り組みもその辺から始まるのではないのでしょうか。

**橋本会長** 共に栄える盟友ですので、一緒にいろんなことをやらせていただきたいと思います。政治家の先生にもご協力を願わないと変わらないと思います。全管連には別途政治連盟もありますしね。

**藤川会長** 給与の話とか、休日のこととか、災害のこととか、職人だからなのか、PRが下手なんですね。会員向けはやってきましたが、外側に対してのアピールがまだまだ弱いと感じています。災害時もいろんなことをやりますが、その時だけしかわかってもらえません。青年部と協力して普段からいろんなことをやっていますので、我々をもっと大事にしてもらいたいですね。ライフラインを支えているんですから。全管連傘下の会員組合の中には、いわゆる三ちゃんと言いますか、お父ちゃんが社長で、お母ちゃんが専務で、息子が現場に出ているという企業も組合員なんです。彼らも災害時には復旧活動に参加してくれています。彼等の会社もちゃんと存続できるようにしたいのです。そういうことを考えると、例えば水道本管だけやっている業者だけ良ければいいということはダメで、水道に関係する業界の皆さんとうまくまとめていきたいと思っています。ですから全

管連、管機連お互いWin-Winの関係にしないとうまく回っていきません。

**橋本会長** 考えていることはいつも全管連さんと一緒ですから。あとは具体的にどういう行動を起こすかどうかです。お互い話し合いながらやっていきたいですね。

—締めくくりに新年の抱負をお願いします。

**橋本会長** 今回のコロナ禍でいろんなことがわかってきました。自分たちでやれることをきちっとやるのが大事です。全管連と管機連が一緒になって、いざというときの体制を作っていきたいですね。環境への取り組みについても、具体的に話を進めていきたいと思っています。

**藤川会長** まず全管連ビジョンで決めたことはきちんと実行していきたい。また組織改革をしっかり進めていきます。管機連をはじめ、水道界にもっと全管連の存在をPRし、一般の方々も理解し目を向けていただきたい。水道という業界に若い人たちが就職の魅力的な選択肢として選んでいただければと思います。

—両団体のさらなるご発展を期待しています。ありがとうございました。